

寺 報

傘かえで

No. 1

発行 遍照山慈光寺
(久慈市大川町)

春彼岸法要 120人参加

ひびき合う百万遍念仏

歌と踊りで懇親深まる

さる三月二十一日(彼岸の中日)

は、慈光寺恒例の「春彼岸」の大法会でした。

定刻の午後一時には、各地から参加された方々で、本堂がいっぱいに

春爛漫、寺庭の花々も咲き揃い、

今がちょうど見頃です。

どうぞ散策の足をのびして当寺にもお立ち寄りください。

このたび、田表永七

氏のご協力、お骨折りに

よりまして、「寺報

「傘かえで」を発刊

することができました。

この寺報は、檀家のみなさんが、

親しく気軽に寺に出入りしていただくための「案内状」でございます。

仏の道を学ぶことは、「生きるための智慧」を学ぶことだと言われております。その智慧は、難しい教義

なりました。

法会は、参加者全員による「百万遍念仏」ではじまり、読経会のメンバー十数人が音頭をとり、参加者が唱和する形で行われました。

この「ジャンボ数珠」は、昨年まで使われていた二つの数珠を合体して、お彼岸用に作りかえたもので、参加者からも大変好評でした。

引き続いて開かれた「懇親会」では、恒例の住職からの法話があり、副住職の発声による乾杯の後、会食にはいりました。

会食では、根井部落の馬内栄寿さん、水無政義さんお二人から贈られた「豆腐でんがく」(四〇〇本)が大好評で、「おかわり」の声がかかるほどでした。

この「豆腐でんがく」は、昨年の秋彼岸の際に、戸呂町婦人会の有志のみなさんから、山形名物の「まめぶ」をふるまっていたいただいたことに

この寺が、その道場となることを願っております。

内容については、寺からのお知らせに

せに加えて、布教の記事なども盛り込んでみたいと思っております。

また、檀家のみなさんからの投稿・投句も歓迎いたします。

どうか末永いご愛顧・ご協力をお願いいたします。

今年、本堂いっぱい広がる大きな数珠が使われたので、参加者全員が数珠を手にする事ができました。

この「ジャンボ数珠」は、昨年まで使われていた二つの数珠を合体して、お彼岸用に作りかえたもので、参加者からも大変好評でした。

引き続いて開かれた「懇親会」では、恒例の住職からの法話があり、副住職の発声による乾杯の後、会食にはいりました。

会食では、根井部落の馬内栄寿さん、水無政義さんお二人から贈られた「豆腐でんがく」(四〇〇本)が大好評で、「おかわり」の声がかかるほどでした。



剋行

この寺が、その道場となることを願っております。

内容については、寺からのお知らせにせに加えて、布教の記事なども盛り込んでみたいと思っております。

また、檀家のみなさんからの投稿・投句も歓迎いたします。

どうか末永いご愛顧・ご協力をお願いいたします。

対するお礼の気持ちを込めて贈られたものです。

馬内さん・水無さんのご厚意に感謝いたします。

新町婦人会のみなさんによる歌と踊りは、次から次と多彩な内容で、懇親会を一層盛り上げてくれました。はじめに参加したという男性は、「お彼岸の法要と聞いて暗いイメージをもっていたが、こんなに楽しい会なら、毎年来たい。」と話していました。

位牌堂の申し込みは

早めにどうぞ

位牌堂の建立については、既に趣意書を配布したり、要望のあった地域では説明会を開くなど、檀家のみなさんのご理解をいただいております。

位牌堂の申し込みは四月二十日現在、約二〇〇世帯で、順調に集約されています。

申し込み期限は、六月三十日となっておりますが、建設委員会とすれば、期限ぎりぎりよりは、早目に申し込んでいただければ、事務処理等何かと好都合です。

みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。



読経会の活動粘り強く

早朝、本堂で読経修行

四月十日(日)の早朝五時二十分、慈光寺の境内は、まだ眠りから覚めないかのように静まり返っています。その静けさの中を一台の軽トラックが、鐘楼のわきへ横づけ。降り立った一人の男性は、そのままつすぐに本堂の中へ――まもなく続々と車が集まって来ました。読経会のメンバーです。

慈光寺に「読経会」が結成されてから既に数年たちます。一時、停滞した時期もありましたが、ここ一・二年、会員も増え、活動も活発になってきています。

定例会は、毎月第二・四日曜日の朝五時三十分(冬期間は六時)から約四十分間です。

早朝、本堂での参拝修行は、身も心も引き締まり、精神修養はもちろ



んのこと、健康増進にもたいへん役立つということですよ。

新しい方の入会を歓迎します。

ご希望の方は、電話で、左記の所に申し込んでください。

会 長 米 内 賢 吉

(55-3048)

事務局長 慶 長 久

(55-3863)

お経に親しむ

①

このお経は、お念仏の前に唱えるものです。短いお経ですから、おぼえやすいと思います。意味を味わいながら唱えてみてください。

攝益偈 (如来の限りなき慈悲のみ光は、念佛の行者のみに)
おまもりを蒙ることを歡びて。

光明遍照 十方世界 念佛衆生 攝取不捨

光明遍照十方の世界を照らして念佛の衆生を攝取して捨てたまはず。

披露 寄進

わが慈光寺は、熱心な檀家のみなさんからのご寄進によって、年内の環境が整備されてきています。平成五年一月以降のご寄進について、ご紹介し、お礼を申し上げます。

◇寄進口印日と御世方名 (敬称略)

◎寺号石柱用礎石

久 保 定 藏 (戸呂町)

◎右の礎石運搬、据え付け

外 里 三 男 (外里)

◎参道両側への「紫陽花」の苗と植

え付け作業 (三〇〇本)

藤 森 サ キ (新町)

待たれる

「檀家婦人会」の結成

数年前から、慈光寺を護持するための「檀家婦人会」(仮称)を結成したいというお話がでています。

「みんなから親しまれるお寺」をつくりあげて行くためには、檀家のご婦人方のご協力が必要ですから、寺とすれば、大変ありがたいお話です。早急に、具体化したいと思っていますのでご協力をお願いします。

◎御上人揮毫掛け軸の表装(多数)

大 森 竹 之 助 (森下)

◎庭園の手入れ

米 内 造 園 (山口)

◎庫裏の外壁修理

青名畑 丑太郎 (仲小路)

◎鐘楼堂屋根の銅板葺替

東 忠 一 (生出町)

「御詠歌の会」が

ほしい!の音高まる

最近、あちこちの方から、「御詠歌を習いたい」ということを言われます。

慈光寺と同じ時宗の光林寺(石鳥谷町)では、御詠歌がたいへん盛んで、毎月二十三日に定例の勉強会を開いているとのことですよ。

昨年の秋彼岸には、当寺の法会のために、わざわざバスでかけつけて御詠歌を奉讃していただいた経過もあります。

当寺では、希望者を募って、五月二十三日(月)に光林寺を見学したいと思っています。

ご希望の方は、当寺までご連絡ください。